



受賞を喜ぶ吉ヶ沢小の全校児童7人と先生方

大きな受賞

ちっちゃな学校の

吉ヶ沢小

こどもファーム・ネット大賞

全校児童7人の快挙。吉ヶ沢小（佐藤晃校長）は、2007年度の子どもファーム・ネット大賞を受賞しました。

全国農協中央会などが主催する「子どもファーム・ネット」に参加。1月26日、瀧渡巧君と滝篤斗君が東京で行われた全国交流会で発表。当日の子どもたちによる投票で吉ヶ沢小のほか5団体が大賞に決定。「声も出ないほどびっくり。二人で握手しました」と喜びを伝える巧君と篤斗君。

新聞は、巧君の祖父で自治会長の瀧渡正吾さん（63）方の田んぼで、春の田植えから秋の脱穀まで取り組んだ米作りを2、3年生が壁新聞にしたものです。新聞づくりと一緒に取り組んだ2年生の芳田愛華さんと上家萌香さんも「お世話になった地域の人たちへの感謝の気持ちを伝えた新聞が選ばれてうれしい」とにっこり。



元気なコミュニティ100選

岩手県の「元気なコミュニティ100選」に本町から3団体が選ばれ2月1日、役場で選定証が交付されました。

他の団体のモデルとなるような先進的な地域活動に取り組む自治会や団体を選定するもの。認定されたNPO法人岩手子ども環境研究所、星野自治会と冬部地域振興協議会の代表に盛岡地方振興局の高橋厚企画振興課長から選定書が手渡されました。星野自治会の本地孝見会長（56）は「元気な自治会づくりに一層励みたい」と意気込みを語りました。

県から選定証交付

選定団体

NPO法人 岩手子ども環境研究所（吉成信夫理事長）・・・旧小屋瀬小・中学校上外川分校を利用し「森と風のがっこう」を運営。環境教育の場の提供や子どもの居場所づくりなど活発に活動。星野自治会（本地孝見会長）・・・「地域資源を活かした美しいむらづくり」をキーワードに、ゲートボール場や花だんなど行政と住民が協働で設置。また地域内ガイドブックを作成し全戸に配布するなど活発に活動。冬部地域振興協議会（名久井安雄会長）・・・地元学の理念により「冬部の里づくり将来構想」を策定し、地区内の環境整備や閉校した旧冬部小・中学校を利活用して活発な活動を展開。



選定証を受ける岩手子ども環境研究所の泰原豊さん。後列は本地孝見さん（右）と名久井安雄さん

表彰

教育表彰

文化部門・個人の部 ▷川戸沙織（江刈小2年） 梧逸忌全国俳句大会（奥州市主催）／特選▷田村渉真（江刈小1年）同／秀逸▷堀口準大（葛巻高1年） 風と恋の俳句コンテスト／高校生の部奨励賞 文化部門・団体の部 ▷葛巻小学校・・・風と恋の俳句コンテスト／団体賞 小学校の部優秀校▷葛巻中学校・・・同／同中学校の部優秀校

三浦梧楼賞

個人の部 ▷峠館由衣（葛巻小6年）・・・岩手県教育委員会と（財）岩手県体育協会が主催する「いわてスーパーキッズ発掘・育成事業」の一期生（78人）に選出。

団体の部 ▷馬淵小学校・・・心身ともに健康な「まべちっ子」を育むため、道路清掃や看板の修理などの在学青少年活動や、校内の「馬淵窯」で炭焼き体験学習を地域住民参加のもと実践している。また、馬淵学区に古くから伝わる郷土芸能「畑神楽」の伝承に取り組み、地域文化の継承活動を行っている。

第28回読書感想文コンクール

小学校低学年の部 ▷教育長賞・佐々木啓人（五日市小1年）▷公民館長賞・山形真未（小屋瀬小1年）、松浦里菜（馬淵小1年）、竹田晴登（葛巻小2年） 小学校中学年の部 ▷教育長賞・馬淵遥（葛巻小3年）▷公民館長賞・中村沙羅（小屋瀬小3年）、晝澤祥（小屋瀬小4年） 小学校高学年の部 ▷教育長賞・森さくら（葛巻小6年）▷公民館長賞・横道真也（葛巻小5年）、山館海（小屋瀬小6年）、東館優樹（吉ヶ沢小6年） 中学校の部 教育長賞・下天摩舞（葛巻中3年）▷公民館長賞・下屋鋪千絵美（葛巻中1年）、村上芽衣（江刈中3年）、安田朱織（葛巻中1年） 高校・一般の部 ▷教育長賞・高家愛美（葛巻高1年）▷公民館長賞・大石裕美（葛巻高2年）、木戸口弘幸（葛巻高2年）

みんなの学び生涯学習標語コンテスト

最優秀賞 前野美優（五日市小5年） 優秀賞 上山愛寿花（葛巻小6年）、神小路未歩（葛巻小5年）、橋本美紅（五日市小2年） 佳作 鈴木南（小屋瀬小5年）、清水野友美（馬淵小6年）、橋本瑞希（五日市小1年）、冬澤実奈未（江刈小2年）、大峠ひとみ（五日市小6年）、御堂地麻衣（江刈中3年）、平澤和志（江刈）、中代キミエ（元町）

教育文化で活躍した人を表彰した生涯学習推進大会



生涯学習推進大会と子どもの未来を考える町民の集い

健やかな子どもの成長を願う

生涯学習推進大会と子どもの未来を考える町民の集いは二月二十四日、町総合センターで開かれ、約百三十人が参加しました。はじめに、平成十九年度に町の教育文化の振興に貢献した三人と二十の学校の表彰や「三浦梧楼賞」、第二十八回読書感想文コンクールとみんなの学び生涯学習標語コンテストの表彰が行われました。続いて、「沖縄県北中城村訪問研

修に参加して」として小屋瀬中学校二年の林桃子さん、「放課後子ども教室と児童クラブの連携について」放課後子ども教室コーディネーターの古川健太郎さんがそれぞれの活動の成果を発表しました。林さんは、「戦後六十年を経ても戦争を感じさせるものが多くある沖縄を訪れ、戦争は二度としてはいけないと強く感じた。世界中には戦争で苦しむ多くの人がまだたくさんいる。その人た



林桃子さん

と発表しました。最後に、読書感想文コンクールで教育長賞に輝いた五人が作品を朗読、会場から盛んな拍手が贈られました。

ちのために自分ができることはまだ正直分らないが、今後も「戦争」と「平和」について考え続けたい」と発表しました。

2月号では、新沼先生と佐藤先生のアメリカでのホームステイについて語りました。今回は、僕が葛巻で経験したことを話します。

ある時、Aさんに夕食に誘われました。夕方Aさん宅を訪れると、Aさんは驚いた顔で「本当に来るとは思わなかった」と言いました。僕、間違えたかな？確かに「家に来て」と言ったのに・・・。

ある朝のことです。Bさんと話していて、昼食に誘われました。正午くらいにBさんの家を訪れると、「どうしたの？」とでもいう表情。昼食に誘っておきながら、ご馳走してくれないのは失礼だと思いました。

結局、このふたつのは社交辞令だということが分かってきました。失礼なことではなく、それは決まり文句で、日本では礼儀正しいことです。習慣は、国々で違います。「郷に入るとは郷に従え」

⑤ デイビッド・マナーリオ (指導主事助手・29歳)

郷に従え②